

羽田空港近く 都会の限界集落

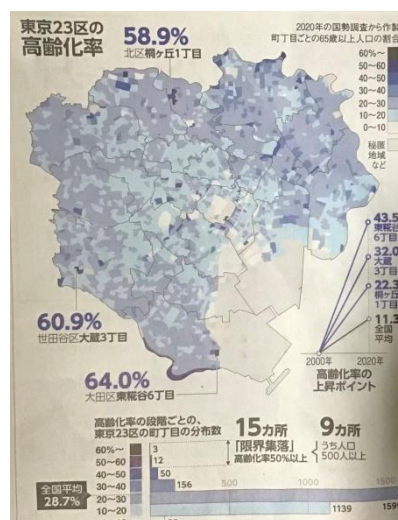
写真は朝日新聞 11 月 28 日朝刊「東京 23 区の高齢化率」。記事を抜粋して紹介する。羽田空港を行き交うジェット音が響く、東京都大田区東糞谷町 6 丁目。約 3 千ある東京 23 区の町丁目の中で最も高齢化率が高く、64%にのぼる。町の「中心部」は、築 50 年を超える都営の「東糞谷 6 丁目アパート」。5~12 階建ての全 5 棟、総戸数は 748 戸からなる。

各地から人々が集まり、活気に満ちた街のイメージのある東京 23 区。人口データを分析してみると、別の側面が見えてくる。5 年ごとの国勢調査の結果を使って、23 区の町丁目単位で 65 歳以上が人口に占める割合の高齢化率の推移を調べると、2020 年の調査で、約 3 千ある 23 区の町丁目のうち、15 カ所で高齢化率が 50% を超えていた。高齢者施設があるといった特殊要因を排除するため、人口が 500 人以上の町丁目に限定すると 9 カ所あり、すべて、町の大部分を都営住宅が占めていた。

最も高かった大田区東糞谷 6 丁目(64%)では、00 年からの 20 年間で、高齢化率が 43.5 ポイント上がっていた。次が世田谷区大蔵 3 丁目で 60.9%(00 年から 32 ポイント増)、北区桐ヶ丘 1 丁目で 58.9%(同 22.3 ポイント増)と続いた。全国の高齢化率が 20 年間で 17.4% から 28.7%と、11.3 ポイントの上昇だったのとは比べ、際立って高齢化が進んでいることがわかる。

都営住宅の建設のピークは、高度経済成長期まっただ中の 1969 年度。都が 20 年度末に調べたところ、都営住宅の名義人の 69.2%が 65 歳以上で、単身入居者に限ると 82.4%に上った。過去 10 年間で、都営住宅内での孤独死は 400 人前後で推移していたが、17 年度以降上昇傾向で、20 年度は 755 人だった。ただ、押さえておきたいのは、高齢化がただちに問題というわけではない、ということだ。人の流動性が高い東京では、「高齢者が住み続けられる」ことの裏返しでもある。問題は、それを支える仕組みがあるかどうかだ。

都営住宅だけの問題ではない。国土交通省の 17 年の調査によると、計画的に開発された住宅団地(1 戸建て含む)の高齢化率は 22.7%。全国の高齢化率を下回るが、入居開始から 40 年以上が経過すると高齢化率が高くなる傾向にある。また、マンションという単位で見たとき、住民の 50%以上が高齢者というところも少なくない。



(2022年12月10日)